

おごれ
祇園祭
からず、この夜の
ことし。
詠行無常の響あり。沙羅双樹の花の
ことし。

むかし、男
なまめいた
はらからすみけり。この男かいまみじ
くてありければ、心地まどひにけり。
その男、信夫摺の狩衣をなむ着たりける

Lyrical and
Narrative
Paintings

雅やかな
やまと絵の
世界

2023
7/17(月・祝)
6/10(土)

歌 物 五 方



平家物語 大原御幸図屏風 桃山十六世紀、
伊勢物語図屏風 宗達派
源氏物語図屏風 江戸十七世紀、
柳生忠兵図屏風 江戸十七世紀、
浮舟図 江戸十七世紀、
浮舟図 江戸十七世紀、
源氏物語図屏風 江戸十七世紀、
三十景歌仙画帖 松花堂昭乗
(江戸・元和11年〔六一二〕、十七世紀)、
やう、
そのまま竹の中に、
そく竹の中に、よ

主催：公益財団法人泉屋博古館、京都新聞
後援：京都市、京都市教育委員会、京博連
公益社団法人京都市観光協会、NHK京都放送局

同時開催：青銅器館「中国青銅器の時代」

SEN-O KU
HAKUKOKAN
MUSEUM

泉屋博古館

うたうたうたう絵

古来、語り読み継がれてきた物語は、古くから絵巻物など絵画と深い関係にありました。和歌もまた、三十一文字の世界が絵画化されたり、絵から受けた感興から歌が詠まれたりと、絵画との相互の刺激から表現が高められてきました。

物語絵や歌絵の特徴のひとつは、繊細な描写と典雅な色彩。宮廷や社寺の一級の絵師が貴人の美意識に寄り添い追求した「やまと絵」の様式を継承することでしょう。そして、ストーリーに流れる時間を表すかのような巻物、特別な場面を抽出してドラマティックに描き出す屏風など、長大な画面にさまざまな表現が生まれました。古典文学は、後世の人々が自身に引き寄せて味わうことで、読み継がれ輝き続けてきました。それに基づく絵画もまた同様です。本展では、近世の人々の気分を映し出す物語絵と歌絵を、館蔵の住友コレクションから選りすぐってご紹介します。雅やかで華麗、時にちょっとユーモラスな世界をお楽しみください。

世界
やまと絵の
雅やかな
物語



左: 柳橋柴舟図屏風 江戸・17世紀 下: 松花堂昭乗 三十六歌仙書画帖 江戸・元和2年(1616)



Lyrical and Narrative Paintings: The Elegant World of Yamato-e

悲喜こもごもの逸話、あまたの恋の物語。
伊勢物語図屏風 宗達派 桃山～江戸・17世紀



山寺の庵主は平氏の生き残り。合戦物語の幕切れはあまりにも美しい

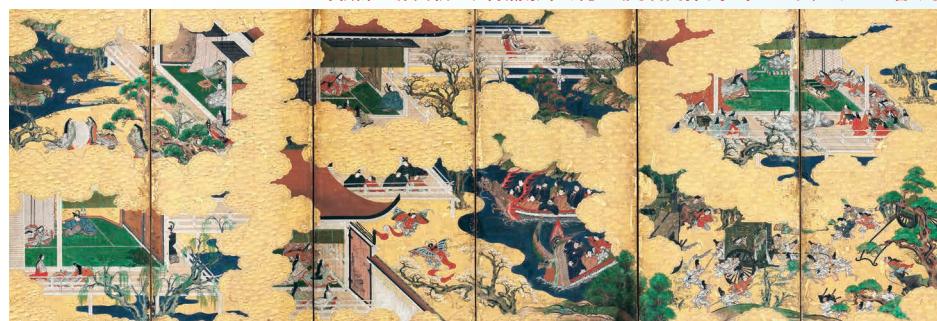


桃山・16世紀



源氏物語図屏風 江戸・17世紀

町絵師の源氏絵は、絢爛豪華で見せ場も面白押し。時にスキャンダルの香りも



この場面はいつ見ても泣ける



竹取物語絵巻 江戸・17世紀

謎の鳥人間が入浴中。中世の宮廷人も夢中になった鳥天狗の物語



南北朝・14世紀 重要文化財



王門行事は音色とともに

ハハトヒー

歌の聲

雅樂の音色

雅樂の音色